
彼女と病院Lin

虚数限界

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女と病院L i n

【Nコード】

N0286I

【作者名】

虚数限界

【あらすじ】

僕は彼女の入院している病院に行く

(前書き)

彼女と病院です。18禁になるような描写はしておりません。安心して閲覧ください。

どんなに明日が輝いて見えたことだろう。

今は何も見えないよ

目の前がふやけて

しょっぱい味がするだけ

「∴」

何度も彼女の顔をつねった

「∴」

彼女に帰る家はない

そんな経験が重なって

彼女が好きだった。

痛みも感じないんだね。

僕はこんなに心が痛いのに

涙が止まらないよ

どうすれはいいの？

おまえがいないと

オレ何にもできないよ

昼に彼女の霊安室に行く

僕の涙はまだ止まらない

そのとき

彼女の目が開いて僕を見つめた。

「まだ、死にた、く、ない、よ、」
「たす、け、て、」

僕は驚いて彼女の主治医を呼んだ。

まだ助かるかもしれません

治るんですか!?

後遺症が残るのは避けられません

金はいくらでも出しますから、助けてください!

今は人が出回っていて、手術ができません。

その医者は、オレに手伝えと言った。

その時のことはよく覚えていない
必死に彼女の手術を手伝った。

集中治療室に彼女は、部屋を移された

「スーツ、ハー、スーツ、ハー」

彼女の息が聞こえて

安心する

だが、

合わない臓器を、無理やり付けたせいで

彼女の腹は真っ赤に腫れている。
包帯がみるみるうちに鮮血に染まる

輸血を必死に探す。

病院中を駆けずり回って集める。

僕の血が適合しないことは知っている。

気づいたら日が暮れていた。

なんとか山を超えたらしい

「スーハー、スーハー、」

彼女の息も安定してきた。

「、好、き、よ」

わかってるさ

今はゆっくり休め

(後書き)

P Cが壊れたとき、彼女がほしいと思い、出来た短編です。
m i x iに私が書いた原文があります。 そちらを見ると、笑える
かなw w S Fつけた理由がわかるかもしれません。
ある意味、バットエンドです。w w

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0286i/>

彼女と病院Lin

2010年10月9日16時17分発行